

安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会 第1回会議 会議録

日時：令和3年3月11日（木）

午後4時～午後6時10分

場所：安曇野市穂高会館第1・2会議室

◎開 会

○司会 皆様、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会（仮称）を開会いたします。

私は、本日の進行を務めます安曇野市教育部長、平林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、長野県教育委員会が進める高校改革に関わる、昨年10月に開催しました旧第11通学区における旧第11通学区高等学校教育懇話会と旧第12通学区における大北地域における高等学校を考える協議会において開催の方向が確認されたことにより開催をさせていただくものです。

開催の経緯につきましては、後ほど改めて県教育委員会による説明の時間を設けさせていただきます。後ほどよろしくお願いいたします。

最初に、お手元の資料の確認をお願いいたします。

次第がついた、とじたものでございます。この中に構成員の名簿、それから、開催要綱（案）ががございます。それから、座席の配置図、県教育委員会が作成いたしました資料集、本日ご説明をさせていただくスライド資料、各地区からの資料となっております。

不足等がございましたら、恐れ入りますが、お申出をいただきたいと思います。

◎合同部会の開催経緯及び趣旨

○司会 それでは、まず初めに、本合同部会の開催の経緯及び趣旨について、事務局より説明いたします。

長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室室長、駒瀬様、お願いいたします。

○事務局（県教育委員会） 皆様、こんにちは。

長野県教育委員会高校教育課高校再編推進室長の駒瀬隆でございます。

平素より県の施策に対してご理解、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

また、本日は年度末の大変お忙しいところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

ます。重ねて御礼申し上げます。

私からは、ご挨拶を兼ねまして、本合同部会の開催経緯と趣旨についてご説明させていただきたいと思っております。

ご承知のとおり、県教育委員会では「高校改革～夢に挑戦する学び～」実施方針を2019年9月に策定し、長野県の高校の将来像を具体的に描くために、新たな学びの推進と再編・整備計画のそれぞれについて方針を示しました。

実施方針では、旧12通学区ごとに再編計画の方向性を示すとともに、旧12通学区ごとに設置する協議会において、将来を見据えた地域の高校の学びの在り方や配置等について検討をお願いしているところでございます。

旧第11、12通学区につきましては、社会の激変に加え、隣接するこの地区に今後小規模化が予測される専門学科が複数あることから、専門教育の維持・充実の観点を踏まえ、総合技術高校の設置など活力ある専門教育の学びの場の配置の必要性を述べるとともに、旧11・12通学区で広域的、多角的な検討が考えられるとしております。したがって、本合同部会においては、総合技術高等学校などと示しております総合技術高校についての理解を深めていただくとともに、小規模化が予想されるこの地区の3校の専門高校について、単独で存続するのがよいのか、それとも総合技術高校がよいのか、またはその他の道を探るのかなどにつきまして、皆様方より忌憚のないご意見をいただき、ご議論をお願いするために開催するものでございます。

資料の開催要綱（案）をご覧ください。

このような開催趣旨に基づき、本合同部会の目的といたしましては、（1）として、安曇野地区と旧第12通学区の高校の在り方を併せて検討すること、（2）として、隣接する地域にある3校の専門学科について、活力ある専門教育の在り方を広域的、多角的に検討する。

（3）として、それぞれ懇話会、協議会に報告としております。特に（2）について、集中的にご議論をお願いしたいと思っております。

2の構成員についてですが、合同部会の開催に当たりまして、旧第11通学区高等学校教育懇話会では、研究部会3に所属するメンバーが構成員になることを第2回の懇話会の場で荒井座長にまとめていただきました。また、旧第12通学区の大北地域における高等学校を考える協議会では、座長であります牛越大町市長様の進行の下、構成員については事務局一任ということになり、事務局でご協議の上構成員を選出いただいております。

次に、3の運営でございますが、構成員から座長及び副座長を選出し、座長が合同部会を

招集、主催していただくことなど記載してございまして、最後に運営に関して必要な事項は座長が定めるとさせていただいております。

会議は、原則公開とさせていただき、座長の判断で一部非公開とすることもできるようにいたしました。

また、名称につきましては、（仮称）安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会としておりますが、ご異存なければ、このようにお願いしたいと思っております。

その他はご覧いただければと思います。

なお、本合同部会は、総合技術高校の設置について、一定の方向性、結論を見出させていただく性質のものとは考えてございません。総合技術高校につきまして、多角的、多面的に意見交換などをしていただき、その様子を旧11通学区の懇話会、12通学区の協議会のそれぞれでご報告いただきたいと思いますと考えております。

以上、経緯と趣旨の説明をさせていただきますが、是非とも活発かつ率直な意見交換をお願いしたいと存じます。

本日はよろしく願いいたします。

○司会 ただいま本合同部会の事務局より、開催の経緯及び趣旨、開催要綱（案）についてご説明いただきましたが、皆様からご質問、ご発言がございますでしょうか。

どうぞ。

○安曇野市教育長 安曇野市教育長の橋渡と申します。よろしく願いいたします。

ただいま駒瀬室長様から、この合同部会の開催の趣旨についてご説明をいただきましたけれども、その中で、私ども旧11通学区は懇話会、そして旧12通学区は協議会と、異なる性質の合同部会であるから、その方向性はどうかというふうに思いましたけれども、室長様からは総合技術高校について一定の方向性や結論を見出すことは求めない、このようにおっしゃられましたので、私どもそういう共通理解で進めるということは確認させていただいてよろしいでしょうか。

一方で、このようにも申されました。小規模化が予想される3校の専門高校については、単独で存続することがよいのか、それとも総合技術高校がよいのか、また第3、第4の道を探るかなどについて、忌憚のない積極的な議論をするために懇話会を開催するのだ、このように申されました。

先般、私ども旧第11通学区の部会、安曇野地域の構成員の皆様方、今日ここにお見えの皆様方がそうなんですけれども、その方々との第1回の会議のときに構成員の方からこのよう

な意見が出されました。一体この会は何をする会なのだ。幾ら教育論議をしたところで、県教育委員会はこれからの人口減少をシミュレーションして、このようにはっきりと具体的な数値を出している——この後説明もあるかと思いますがけれども、2035年には20学級以上を減らしていかないと全ての高等学校を維持することは困難だ。簡単な言葉で言えば、高校の数を減らしていかねばいけない、こういう提案をしているのに、そのことに真正面に取り組まなくて議論はいいのかというご指摘をいただきました。

先ほど、単独で存続することがよいのか、それとも総合技術高校がよいのかと、いろいろな意見を自由に出してくれというふうにも受け取れるのですが、そうしたときに、それぞれの協議会や懇話会にこういう意見が出されましたということだけの報告で、その一つ一つについてどのように検討されるのかというようなことが私どもにはあまり実感として伝わってまいりません。何を言っても自由だということは、何を言っても取り上げられないということだあってあるんじゃないかというふうにさえ疑念を持たざるを得ない感じもいたします。

この議論が始まる前段のほうでは、県教育委員会主催で塩尻、松本、安曇野を会場に住民説明会が開かれました。安曇野地域では合計270名の県民の方々が豊科公民館ホールへ、コロナ禍にもかかわらず来ていただいて、本当にたくさんのご意見が出されました。今日来ておられる駒瀬室長さんもそこに同席されてその声を直接聞かれたわけですがけれども、そこで出された個々の意見というよりは、出された観点こそ、室長さんが申されました多面的、多角的な論点、視点ではないのかと思うんです。ただ、そのこともあまり生かされていないように思うわけです。あれだけのたくさんのご意見をいただいたのに、その意見はどうなったのか。そんなことを思うと、ここでの仮に意見が出され放しになるのではないかとちょっと危惧をいたしまして、この会の趣旨、目的をはっきりさせる意味で、冒頭長くなりましたけれども、一言ご意見を申し上げました。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

それでは、何かコメントがございましたら、お願いしたいと思います。

○事務局（県教育委員会） ただいまご意見、ご意見というか、ご要望というような感じで承っております。とにかく今回の会議といたしましては、先ほど申しましたように、この地区、旧11、12通学区にあります3校の専門高校の今後の在り方について様々な角度からご意見をいただきながら、それを踏まえて、私どもその次の段階に進めてまいりたいというのが趣旨でございますので、それぞれ専門学校の在り方についてご意見があるかと思えます。先ほど

申しましたように、この会議で方向性を見出すというものではございませんので、皆様のご意見等々をこちらでも吸い上げるような形で、次の段階へ進めてまいりたいというようなことになっております。

さらに、これからの高校教育というのは、今までは学校だけ、関係者だけでいろいろ立ち上げる段階で話し合いをしながら決めてまいりましたが、地域の声もしっかりといろいろな場面で聞きながら、それを全て聞こうということはなかなか難しいことがございますけれども、聞きながら進めていくということが一番肝要だというような観点から、このような会を設けさせてもらって、皆様のご意見を聞くということになりましたので、ご理解いただければと思っております。

○司会 他に開催要綱等につきましてご意見がございましたら、お願いいたします。

それでは、ただいまの説明並びに開催要綱に基づきましてこの会議を進行させていただきたいと存じます。

皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◎構成員の自己紹介

○司会 それでは、会の進行に先立ちまして、初めてお会いする方もいらっしゃると思いますので、構成員の皆様の自己紹介をお願いしたいと存じます。

お配りしてございます座席配置図の順番で、所属とお名前と、それから、少しコメントを併せて頂戴できればと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、恐れ入りますが、大町市教育長、荒井様よりお願いいたします。

○大町市教育長 大町市の教育長の荒井でございます。

今、橋渡教育長さんから、前もって一つのご示唆がありましたけれども、それらを踏まえて、しかし、少子化が進んでいてそれへの対応を求められているという現実だけは私ども忘れないで中身のある議論をしていきたい、そんなことを思いながら参加させていただきました。よろしくをお願いいたします。

○池田町教育長 皆様、こんにちは、お世話になっております。池田町の教育長を務めております竹内と申します、今日はよろしくをお願いいたします。

池田工業高等学校の地元池田町の行政を代表いたしまして今日参加させていただきます。よろしく申し上げます。

○白馬村教育長 皆様、こんにちは。白馬村教育長の平林と申します。よろしくお願いいたします。

○池田町商工会長 池田町の商工会の会長を務めております矢崎と申します。よろしくお願いいたします。

○長野県建設業協会安曇野支部長 こんにちは。長野県建設業協会安曇野支部長の降幡と申します。よろしくお願いいたします。

○安曇野市PTA連合会長 令和2年度安曇野市PTA連合会会長を務めておりました出水と申します。今、正式には令和3年度に選出の評議員会に入っております。私のほうで引き続きこの会を務めさせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○安曇野市中学校長会長 安曇野市校長会長、三郷中学校の内川雅信でございます。よろしくお願いいたします。

○元大町高校長 こんにちは。12通のほうで、大町高校、統合に関わりました横川と申します。現在、白馬村教育委員会のほうでお世話になっております。よろしくお願いいたします。

○豊科高等学校長 こんにちは。安曇野市内の4高校の代表として出席させていただいております豊科高校の保坂美代子と申します。よろしくお願いいたします。

○松本機械金属工業会長 松本機械金属工業会の会長をやっております平林でございます。

ちょっと一言、誤解があるようで、先ほど安曇野市教育長さんのこの会議の存続云々という発言は、多分私の発言だと思うんですが、私の発言はそういう趣旨ではなくて、もうこういう状態になったら高校を減らそうという、また、その前提に立った会議でなければ幾らやってもしょうがないよという意味合いで言ったわけです。私は前提を、高校を減らすという、その前提で皆さんと話し合いたいと思います。誤解のないようにお願いします。

○松川村商工会長 松川村商工会会長の内川輝雄と申します。よろしくお願いいたします。

○大町商工会議所会頭（代理） 大町商工会、会頭の代理で参りました専務理事のミヤサカと申します。よろしくお願いいたします。

○松川村教育長 皆さん、こんにちは。松川村教育長の須沢和彦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この会が将来を見据えた中での意見交換になるように望んでいます。どうぞよろしくお願いいたします。

○生坂村教育長 皆さん、こんにちは。生坂村教育長を務めております樋口と申します。

この3月に2年目を終わるところでございます。よろしくお願いいたします。

○安曇野市教育長 安曇野市教育長の橋渡勝也と申します。よろしくお願いいたします。

○信州大学准教授 信州大学の教職員支援センターというところから参りました荒井です。

懇話会のほうの座長も拝命しております。よろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

それでは、本日ご欠席になられている方のご紹介をさせていただきます。

旧第11通学区懇話会でございますけれども、JAあづみ千國茂組合長さん、安曇野市商工会会長、高橋秀生様、大北地域協議会でございますけれども、小谷村教育長、山田光美様、北安曇郡大町市小中学校長会会長、吉澤清様でございます。

◎座長、副座長の選任

○司会 それでは、先ほどご確認いただいた開催要綱に定めてございます座長、副座長を選任させていただきますと存じます。

開催要綱の3、運営の第1項におきまして、座長1名、副座長1名を皆様の中から互選するという事は先ほどご確認いただいたところでございます。

互選に当たりましては、ご参加の皆様から、立候補、推薦等がなければ、事務局から腹案を提案させていただければと存じますが、いかがでございましょうか。

(発言する者なし)

○司会 それでは、ご提案をさせていただいて差し支えなく、よろしいというふうに判断させていただきます。

それでは、事務局の長野県教育委員会高校教育課の上原主幹指導主事様よりご提案させていただきます。

○事務局（県教育委員会） それでは、事務局から腹案をご提案させていただきます。

座長として、信州大学教職員センター准教授、荒井英治郎様をご推薦いたします。

荒井先生は、旧第11通学区高等学校教育懇話会の座長をお務めになられると同時に、旧第12通学区の大北地域における高等学校を考える懇話会の構成員でもあられ、両地区の会議の様子を熟知されていることからご推薦させていただきます。

副座長として、大町市教育長の荒井今朝一様をご推薦申し上げます。

荒井様は、長く大町市教育長をお務めになられ、本地区の教育情勢を熟知されていることからご推薦申し上げます。

○司会 ただいま事務局案をご提案いただきました。

繰り返させていただきます。座長を信州大学准教授の荒井英治郎様、副座長を大町市の荒井今朝一教育長様にお願いしたいとの提案でございますが、いかがでございましょうか。

ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

(拍手)

○司会 ありがとうございます。

それでは、荒井先生、荒井教育長、座長、副座長席にお移りいただきまして、ご挨拶を頂戴できればと思います。

○座長 改めまして、信州大学の荒井でございます。

先ほど自己紹介の中でも様々なご見解をご披露いただきましたけれども、引き続き活発なご意見をというふうに思っております。よろしくをお願いいたします。

○副座長 僭越でございますけれども、副座長ということでお引き受けをいたしました大町市の荒井でございます。

ダブル荒井になってしまってちょっと恐縮なんですけれども、荒井先生をお助けしながら、内容のある会議にしていきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

◎県教育委員会の資料説明

○司会 それでは、会議事項に入らせていただきます。

進行につきましては開催要綱3の第2項の規定により、座長が懇話会を主宰することとなっておりますので、以降、荒井座長にお願い申し上げます。

○座長 それでは、進行のほうを務めさせていただきたいと思っております。

冒頭お配りしております次第をご覧いただけたらと思っております。

この次第に従いまして、会を進行させていただけたらと思っております。

時間が限られておりますけれども、スムーズな会の進行にご協力いただけたらと思っております。まず、冒頭、確認となります。

次第の一番最後の部分になりますけれども、開催要綱、そして会の名称に関して、あらかじめ確認をさせていただけたらと思っております。

この開催要綱の内容、そしてこの部会の名称に関して、事務局のほうでご提案いただいた

とおりにいうことでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○座長 それでは、名称はこういった形で、そして開催要綱もこの内容でと思っていますので、(案)及び(仮称)という部分をお取りいただけたらと思います。よろしくをお願いします。

それでは、冒頭、次第に戻りまして、会の進行をいたします。

まず、会議事項のところの(1)県教育委員会の資料説明という形になります。

冒頭、長野県の教育委員会のほうから説明の時間を取っておりますので、よろしくお願いたします。

○事務局(県教育委員会) 皆さん、こんにちは。長野県教育委員会高校教育課高校再編推進室の、私、山岸と申します。

本日は、大変ご多忙中ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

ちょっと個人的な話で恐縮ですけれども、私、高校の数学の教諭でございます。教諭をやっているときは高校再編ということあまり考えたことはございませんでした。目の前の生徒にどう教えようか、今日は何を語ろうか、そういうことを考えておりましたけれども、こういう仕事をさせていただくようになりまして、未来の子どもたちに何を残し、何を語っていくべきかということを考えるようになりました。

本日は、短い時間ではありますが、高校改革について、総合技術高校を中心に、私のほうでご説明させていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、最初にお配りしている資料をご覧くださいながらでございますが、高校改革のこれまでの経緯及び概要について、簡単にご説明をさせていただきます。これまでもたびたび説明をさせていただいておりますので、重複する部分もあるかと思えます。ご容赦いただきたいと思います。

ご覧いただいておりますように、県教育委員会では、2017年3月に策定しました学びの改革基本構想では、「新たな学びの推進」、これは学びの質を充実させるということでございますけれども、これと「新たな高校づくり」、これを一体的に取り組む方向をお示しさせていただくとともに、高校改革が少子化に対応するための単なる数合わせ、縮小・統廃合計画、こういうものではなくて、新たな時代の新たな学びへと改革するための絶好のチャンスと捉えるという推進の要請をお示しいたしました。

2018年9月には、基本構想により具体化した実施方針を策定し、長野県の高校の将来像を描くために新たな教育、「新たな学びの推進」と「再編・整備計画」について、六

つの方針をお示しいたしました。

スライド3番でございます。実施方針は、全ての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦していく学びを実現するための方針でございます。これからの時代には知識、技能の習得に加え、想像力を働かせて新しい価値をつくり出す力や多様な他者と協働する力などが必要となります。

このような力は、当然全ての生徒に必要なものですので、方針1として、全ての高校がこれからの時代に必要とされる力を育む新たな学びへ転換することをうたい、方針2は、多様な生徒に対応する多様な学びの場と学びの仕組みを整備充実すること、方針3では、新たな学びにふさわしい環境——この環境というのは、エアコン、トイレ、老朽化対策等々のことでございますけれども、これらの整備について掲げてございます。右側、新たな高校づくりについては、方針4として、さらなる少子化の進行に的確に対応すること、方針5としまして、多様な学びの場、これは高校配置方針等についてのことでございますけれども、これを前提に適切な配置をするということ、方針6として、地域での検討を踏まえて再編・整備計画を確定し、再編を実施しない既存校を含めて計画的に整備を進めるというふうにしております。

スライド4ですけれども、方針1の新たな学びの転換ということでございますが、探求的な学びの推進を中心に、既に各校で様々な取組がなされ、一步一步着実に、新たな学びへの転換が進められているところでございます。最も重要な学習プロセスとしての探求的な学び、これは知識、技能を習得するだけでなく、ICTを活用したり、フィールドワーク、グループワーク、またプレゼンテーションといったこれまでの授業とは異なるシチュエーションで思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、主体性を持って多様な人々と協働的に学ぶ態度、これらの学力の3要素をバランスよく身につけることによって新たな社会を想像する力を育むこと、この大切さは皆さんも理解いただいているところかと思えます。

方針2は、多様化する生徒の学習ニーズや専門教育に応える高校の充実・拡大、総合学科高校、総合技術高校、多部制・単位制の充実拡大、通信制の改革、モデル校の指定などについて記載されております。

また、方針3の環境整備につきましては、新型コロナウイルス感染症の対応として、今年度4月補正予算で、県立高校のICT環境整備を前倒しして県立高校にタブレット端末を整備するとともに、Wi-Fi環境を整えるというところでございます。

次に、スライド6でございますけれども、これは方針3にございます、「県立学校学習空間デザイン検討委員会」の最終報告の一部でございます。この委員会は、長野県のこれから

の学びにふさわしい学習空間をデザインするとともに、高校改革における再編・整備計画に基づく施設設備及び県立学校施設の中長期的な修繕改修計画の策定に当たって、効率的な整備、維持管理に関する手法について検討する目的で設置されたものでございます。

この最終報告では、新たな学びと新たな学習空間を合わせた一体的な高校改革を目指しまして、これからの学びに必要な学習空間、生活空間、執務空間、共創空間、これらの創出をするというふうにしております。ご覧いただきますと、この場面のように廊下に沿って普通教室が並んでいるというような校舎でないことがお分かりいただけることと思います。

さらに、今後は地域との共生、この大きなテーマ、大きな視点となることから、従来の学校内で完結する学びではなく、地域と連携した学びが推進できるように、例えば地域連携協働室、こういったものを設置して、地域との共創空間を創出できるようにするなど、検討しているところでございます。

詳細につきましては、県教育委員会のホームページにございますので、ご覧いただければと思います。

続いて、スライド7番、新たな高校づくりについてでございます。

方針4としましては、都市部における小規模校を分離する背景として、教育効果の最大化を目指す。そして学びの場の担保、保証の観点から、中山間地に立地する高校では一人一人の生徒に寄り添ったきめ細かな支援を行いまして、また、地域との拠点として、地域と協働する学びの中で新たな社会を想像する力を育める環境を整えたいというふうに考えております。すなわち都市部では規模の大きさを十分に生かした高校、そして中山間地においては小規模になっても存続させる学校を配置する。大きな規模と小さな規模の高校をバランスよく配置していきたいということでございます。

方針5といたしましては、多様な学びの場を配置し、地域全体、県全体で高校の将来像を総合的に検討すること、方針6としましては、再編を実施しない高校を含めて計画的に整備を進めるということでございます。

簡単ではありますが、改めまして「高校改革～夢に挑戦する学び～」の実施方針についてご説明をさせていただきました。

それでは、なぜ今このような高校改革を進める必要があるのでしょうか。

スライド8番をご覧いただきたいと思います。

私たちの目指す高校改革は、先ほど申し上げました実施方針にもありますように、少子化に対応する数合わせの改革ということではございません。しかし、少子化の問題は非常に深

刻だというふうに考えております。

ご覧いただきまして、その少し前からご説明させていただきますと、日本の人口は、ご承知のとおり、2008年をピークに減少に転じております。近年、少子化と高齢化が同時に進行しているというのはご承知のとおりかというふうに思います。

本県は、それより少し早い2000年をピークに人口減少に転じております。県全体の中学卒業生数は、それより10年ほど早い平成元年（1989年）でございますけれども、2万8,000人をピークに減少に転じまして、2020年には1万9,000人ほどになりました。さらに、この先2035年には1万3,000人余りとなる見込みでありまして、ピーク時に比べ半数を割るという見込みになっております。

続いて、スライド9をご覧ください。これは旧11通学区のグラフでございます。2035年は2,952人となって、初めて3,000人を割り込み、2017年の70%程度となる見込みでございます。

続いて、スライド10でございますけれども、旧第12通学区につきましては2034年から300人を割り込みます。2035年には2017年の52%程度まで減少する見込みというふうになっております。

グラフを見ていただきますと、どちらの地区も昨年度、あるいは今年度まで激しく減少いたしました。ここから数年間は横ばい、増加したり減少したりしますが、ほぼ横ばいで推移いたします。そして2025年くらいからは五月雨式に、断続的に減少が続く見込みというふうになってございます。このように私たちが高校改革を急ぐ理由は、社会の激変に対応した新たな学びに改革することが1丁目1番地ということでございますけれども、このような少子化の状況を見ますと、高校改革に拍車をかけなければいけない大きな要因になっているということは紛れもない事実ということでございます。

少子化の状況につきましては、お配りしてございます資料集のほうに、2ページから4ページにわたりまして市町村別の人口の資料を掲載してございますので、併せてご参考にいただければというふうに思います。

話を進めさせていただきます。

次に、激変する社会における専門教育の学びについてお話をまいります。

スライド11をご覧ください。ご承知のとおり社会を取り巻く環境の変化が非常に激しく、世界的規模で社会の価値観の多様化が進んで、グローバル化、高度情報化等の社会の大きな変化に伴って既存の枠組みを超える産業構造の変化が起きています。現在、情報社会、すなわちSociety4.0の段階というふうに言われてございますけれども、従来の情報社会のままで

は少子化、高齢化や地方の人口減少等の課題への対応が困難とされております。例えばAIやIoT、ドローン、無人ロボットや自動運転、また、最近ではゼロカーボン社会、このような社会の実現に向けて最新のテクノロジーを活用して対応し、これらの課題を総合的に解決していく新たな社会、Society5.0の段階を目指す必要があるというふうに言われております。

激変する社会に対応するためにも、高校改革の再編統合、いわゆる「新たな学びの推進」、これを現在急ピッチで進めているところでございます。

例えばスライド12を見ていただきますと、授業も急速に変化をしていきます。このような左側のような先生が黒板で説明して、生徒がノートをとっていく、いわゆる講義型の授業が主体でございましたけれども、右側のようなグループワークであったり、発表、プレゼンテーション等の全体授業が徐々に増えております。

スライド13でございますけれども、これら授業改革の他にも、「新たな学びの推進」として、県教育委員会は「未来の学校」構築事業による実践校の指定、また、先ほど述べましたけれども、ICT環境整備、また、今年1月26日に中央教育審議会の答申、「令和の日本型学校教育」の構築、これが発表され、公表されました。

このことについては、資料集9ページに、答申の概要をつけてございますので、また後ほどご覧いただきたいというふうに思いますが、ここに、スクール・ミッションを再定義して、スクール・ポリシーを策定するという項目がございます。本県の高校は、生徒育成方針、教育課程編制実施方針、生徒学習方針、これらを三つの方針としまして、各高校の学びを体系的にお示するとともに、地域社会と協働で結ぶためのグランドデザイン、これを令和2年3月に全ての県立高校でいち早くお示したところでございます。

このように高校改革はイコール高校再編ということではありませんし、ましてや少子化だから高校再編ということでもございません。高校改革は「新たな学びの推進」と再編・整備、これを一体的に進めるものである。このことについて是非ご理解をいただきたいというふうに思っております。

では、続けて、スライド14番、15番でございます。

このような背景の中にあって、高校改革実施方針の旧第11通学区及び第12通学区の再編計画の方向、これについて確認をしたいと思っております。

14番のスライド、訂正を1点お願いしたいと思うんですが、2番、普通科についてというふうに書いてありますけれども、これは、普通科ではなくて、「普通高校について」というふうにご訂正をお願いしたいと思います。申し訳ございません。

まず、旧第11通学区のほうから整理させていただきたいと思います。

一つ目として、学校数が多く、学校種が多様な私立高校が多いこと、これらを生かしながら、中学生の期待に応える、そしてまた少子化の進行を考えると再編の実施が前提である。

二つ目として、普通校は、都市部存立普通校と中山間地存立校を適切に配置すること。具体的には塩尻、松本、安曇野の3市には規模の大きさを生かした都市部存立校を配置して、そして学びの場の保証の観点から中山間存立校を配置する。先ほどご説明したとおりでございます。

そして三つ目として、専門学科の小規模化が想定される中、活力のある専門学科を維持・充実する。総合技術高校の設置など、活力のある学びの場を配置する。さらに、第12通学区の専門高校と合わせて広域的、多角的に検討することが示されてございます。

スライド15番は、旧12通学区についてです。

一つ目は、地域の中学生の期待に応える学びの場の整備として、12から11区への進学希望、これにも応えながら、しかし、地域の子どもたちを地域で育てる観点を大切にすること、これは中山間地存立校の重要性を述べていると言ってよいと思います。また、二つ目として、既存の学究科、国際観光科など、特色のある学びの場を普通科とともに充実を図ること、そして三つ目としまして、専門学科については総合技術高校の設置など活力ある学びの場を配置するというところでございます。

繰り返しになって誠に恐縮でございますが、活力ある専門学科の維持・充実、これはこの地区にあります専門学科、すなわち農業、工業、商業の学びを活力を持って維持・充実させることということでありまして、必ず成し遂げていかなければならない大切なミッションと考えております。これを何としても成し遂げるための一つの考え方が総合技術高校などということでございます。総合技術高校がよいのか、その他の　　なのかなど、専門学科、専門教育の維持・充実のために具体的にどうしていけばよいかについて、今後忌憚のないご意見を頂戴したいと私からもお願い申し上げます。

続いて、スライド16、17番、先ほど出てまいりました都市部存立校と中山間地存立校について改めてご説明させていただきます。

私たちは、都市部にも中山間地にも高校が存立して、それら全ての高校で新しい社会を創造する力を育む必要があるというふうに考えておりまして、都市部存立校、中山間地存立校、こういう考え方を導入しております。

都市部存立校は、市街地に位置すること、さらに地理的な条件から、学校群として複数校

で一体的に将来像を検討することが望ましい高校として定めてございます。都市部存立校は、規模の大きさを生かして切磋琢磨しながら、新たな社会を創造する力を育むことができる高校でございます。

それから18番です。一方、中山間地存立校は都市部存立校でない学校、すなわち市街地に位置しない、あるいは他校との学校群が考えにくい学校でございます。安曇野・大北地域では明科高校、池田工業高校、大町岳陽高校、白馬高校の4校が該当いたします。所在が都市か、中山間地かだけの区分ではありませんので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。中山間地存立校の多くは、小規模という特徴を生かし、一人一人の生徒に寄り添ったきめ細かな支援や地域との協働化に向けてとしたいというふうを考えております。

次に、19番でございます。それぞれ望ましい募集学級数は、都市部存立普通校が6学級以上、それ以外は3学級以上というふうにしてございます。

都市部存立校の普通校が6学級以上、都市部存立校の専門校が3学級以上、これが望ましいとしてございますのは、現在も専門高校は普通高校に比べて学級数が少ない。この状況下で募集学級数を拡大した場合には都市部への集中が進み、全県の適正配置を維持できなくなると考えられることから、望ましい募集学級数を、都市部存立普通校は6学級、都市部存立専門校は3学級というふうにさせていただいております。

また、再編対象の基準は、都市部存立普通校が520人以下が2年連続、専門校が280人以下が2年連続、中山間地は複雑になっております。ご覧いただければと思います。

この520人という数でございますけれども、資料の下にございます。見ていただきますと、3年生が例えば5クラス、1、2年生が4クラス、5クラス、4クラス、4クラス、この計13クラスに40人がフルに在籍した数、これが520人ということになります。同じように280人という数は、3年が3クラス、そして1、2年生が2クラス、3クラス、2クラス、2クラス、計7クラスに40人がフルに在籍した数、これが280人ということになります。

実際には、全てのクラスで40人在籍するということは少し考えにくいことですので、都市部存立普通校は4クラス割れが続いた場合、都市部存立専門校は2クラス割れが続いた場合に再編対象になり得る可能性が高いというふうにご理解いただければよろしいかと考えます。

次のスライドでございます。

このような中で、改めて、安曇野・大北地域にある高等学校の2035年の募集学級数を予測してみたいと思います。

紙の資料でございますが、大変申し訳ありませんが、マスクをしてございますので、画面

をご覧ください、ご説明させていただきたいと思います。

安曇野市に4校、大北地域に3校ある高校のうち、緑色が都市部存立校、オレンジ色が中山間地存立校でございます。

来年度2021年の募集学級数は、明科が3クラス、豊科が2クラス、南安曇農業、穂高商業、池田工業がそれぞれ3クラス、大町岳陽が5クラス、白馬が2クラスの合計24クラスということになっております。

11、12通学区を合わせた中学卒業予定者数は、15年後の2035年は、来年度新入生のおよそ74.8%、右上に赤丸で囲ってございますけれども、74.8%となる見込みでございます。同じ割合で募集学級数合計を算出いたしますとおよそ18クラス程度になるというふうに見込まれます。これは各校を仮に、ある意味で適当にでございますけれども、割合を出させていただきますと、7校のうち5校が2クラス募集、そして2校が4クラス募集が考えられるということでございます。中山間地存立校は平均値が複雑でございますので一概には言えませんけれども、少なくとも都市部存立校は、普通校でも、専門校でも再編対象に該当する規模になるということが考えられるところでございます。

そしてこの地図の高校が小規模の分離状態ということになりまして、規模の大きさを生かした切磋琢磨する都市部存立校、こういったものはこの地区には配置できないという可能性が生じるということになります。

この右上に書きました74.8%というものでございますけれども、この数字は11と12全体を合わせた割合ですので、安曇野・大北地域の減少の度合いはさらに大きいというふうに思われます。先ほどご説明しましたとおり、資料集の5ページのところに市町村別の年齢別人口、予測値でございますので、ご覧いただければというふうに思います。

専門高校の募集学級を維持し、松本市内の普通高校の定員を減らしたらどうかというようなご意見もございますけれども、募集定員につきましては様々なご意見があるところでございます。ある意味一方的な対応は不適切というふうにこの場ではっきりと申し上げたいと思います。

また、学校を小規模化するので少人数学級はどうかというようなご意見も多数ございます。しかしながら、高校における1学級の生徒数といいますのは、高校標準法によって40人を標準とすると定められております。少人数学級編制に仮にしたとしましても、学校が小規模化するという事は変わりございません。

また、高校ではクラス編制とは別に、少人数編制による授業を幅広く実施しております。

例えば南安曇農業高校では、高校2年生より1学科3コースずつ、3学科で9コースに分かれましてコースをベースに授業が行われます。1コース12人から13人の生徒数と聞いております。このように生活集団と学習集団の条件をご理解いただきまして、高校の小規模化と少人数学級のそのことについては区別して考えてもらいたいというふうに思っております。

なお、資料、紙ベースはマスクさせていただきました。2035年の募集学級数の予想、これにつきましては、急激に進む少子化がこの地区に与える影響を分かりやすく説明させていただくために独自に予想したものでございまして、県教育委員会のシミュレーション、方針ということではございませんので、資料としてはお配りしてございません。大変申し訳ございません。

話を進めさせていただきます。スライド21番でございます。

このような中で、実施方針にございます総合技術高校などという記述について説明させていただきます。

総合技術高校と申しますのは、複数の専門学科が配置されて、各専門学科の独立性、専門性を同時に保ちながら、専門学科の枠を超えた学習が可能な高校を指します。学科の枠を超えると申しますのは、例えば農業科の生徒が商業科の科目を学ぶ、他学科の科目を履修することができる、また、全学科共通履修科目を設置する、こういったことを指します。想定される総合技術高校の形といたしましては、単科の農業高校、工業高校、商業高校との専門学科の学びの専門性を担保しつつ、学校を一つにした形態が考えられます。また、発展的に、家庭科、福祉課、また、介護医療等の科目、こういうものを加えまして、新たな分野を加えた地域の産業人材を総合的に輩出する、このような高校も考えられるというところでございます。

総合技術高校と総合学科、総合学科高校、よく混同されやすいところですが、総合学科と申しますのは、個々のキャリア実現に向けて多様な選択科目の中から主体的に各自が選択して時間表を作成する。このことによってキャリア形成することを目的とした学校です。この地区には塩尻志学館高校が総合学科高校でございます。したがって、専門学科において専門性を担保する総合技術高校とは異なりますので、ご理解いただきたいというふうに思います。

長くなって恐縮ですが、もうしばらくお付き合いをいただきたいと思っております。

スライド22番は、県内の総合技術高校について少しご説明させていただきたいと思っております。本県には3校の総合技術高校を設置しております。

平成20年の長野県産業教育審議会の答申を受けまして、飯田工業と飯田長姫高校が統合いたしました。平成25年に飯田O I D E長姫高校が開校いたしました。ちなみに、このO I D Eという校名は、工業、商業、農業分野におけるものづくりの拠点校の役割を果たす、独創、originality、想像、imagination、工夫、device、努力、effort、これらの精神を尊重するよう、頭文字を取ったものでございます。O I D Eは、地域と連携した地域人教育で全国的にも注目されておりました。現在、文部科学省の地域との協働による高等学校教育課程推進事業プロフェッショナル型に指定されてございます。

須坂創成高校は、須坂商業高校と須坂園芸高校、そして地元の要望によりましてそれまでこの地域にはございませんでした工業科を加え、平成27年に開校した学校でございます。

佐久平総合技術高校は、北佐久農業と岩村田高校の工業科を統合しまして、平成27年に開校しております。

来年度の募集学級数は、3校いずれも7学級規模ということになっております。

これら3校の学科の枠を超えた学び、学科連携科目でございますけれども、須坂創成と佐久平では、全ての生徒は産業基礎という科目を必修科目として学んでおります。この中ではコミュニケーション技術や労働法、また知的財産権など、全ての産業分野に必要な社会人基礎力を高めるための学びを実践しているということでございます。

佐久平総合技術高校では、1、2年生で産業基礎、これを全学科必修科目としております。2018年度に学校が行った調査では9割の生徒が「興味や関心、学習意欲が高まる授業」として評価をしております。

また、専門科でございますけれども、3校とも選択科目として他学科の科目が履修できるように教育課程が編制されてございます。

ただいま説明させていただいた総合技術高校ですが、総合技術高校の設置等として、活力ある学びの場の配置、このように記述させていただいております理由を大きく二つご説明をしたいと思います。

24番のスライドをご覧ください。

一つ目は、これからの時代は分野の連携が必要な時代であるということでございます。

先ほども申しましたように、平成20年の長野県産業教育審議会の答申では、技術革新や産業構造の変化に対応した異なる学科との連携、融合の必要性があることから、新しいタイプの専門高校として総合技術高校に決定をされました。さらに平成27年の答申では、総合技術高校は、変化の激しい社会情勢における望ましい産業構造の方向性に合致する高校というふ

うにされました。

このように総合技術高校は、新たな時代を生きる子どもたちにとって、時代にマッチする、時代のニーズにふさわしい学びの場であるとともに、新時代の産業人材の育成を目指す規模を生かした産業教育の拠点校としても考えられているところでございます。

二つ目でございますけれども、専門教育を県としても維持・充実をしていきたいということでございます。

全県的に見ますと、このままの状態が高校を維持するといった状況が続けば、近い将来、個々の専門学科単独校において募集停止をせざるを得ない高校が出てくるものというふうに危惧をしております。この地区におきましても、このままの状態が続けば、農業、工業、商業のいずれについても新たな社会に対応する専門教育の学びを維持・充実することが困難であることは十分に予想できるところでございます。

続きまして、総合技術高校の要と言える各分野の融合について、もう少しだけお話しさせていただきます。

専門家の皆さんが多数いらっしゃるところで大変恐縮ではありますが、例えばこれは農林水産省のホームページでございますが、初めの行、農工商連携というページがございます。これは農林漁業者と商業者がそれぞれの経営の強みを生かして連携することで、付加価値の高い新商品を開発しましたり、新サービスを提供することによりまして、新たな市場を開発し、経営を向上させ、ひいては地域構造や地域における集合機関の拡大を目指すというものでございます。平成20年に成立しました農工商等連携促進法による金銭的な支援制度というものもあるようでございます。

続いて、スライド27番でございますけれども、このスライドは先月23日の朝日新聞の紙面でございます。新潟大学、千葉大学など国公立6大学が4月から工学部の学部を一つにまとめるというような記事でございます。工学部系学部、進む脱「縦割り」、分野がまたがるテーマが増えて、ご当地学習の「千葉大学など、6～10学科を1学科に」などの見出しがご確認いただけるものと思います。この記事の中では、琉球大学の工学部長の先生が、社会の複雑化に向け、スマート・グリッド（次世代送信網）など複数の工学分野にまとまるテーマが増えてきているというふうに言われております。

さらに広く科学技術分野の壁を取り除いている高等教育機関のご紹介をしたいと思います。

次のスライド28番をご覧ください。

これは昨年、NHKスペシャルで、パンデミック激動の世界（6）「“科学立国”再生へ

の道」、この中で取り上げられました沖縄県恩納村にございます沖縄科学技術大学院大学、通称OISTでございます。

ホームページには、分野を隔てる学部の壁をなくして、世界中から集結した様々な専門性を持った研究者や学生たちがともに研究を行う大学院大学であるというふうでございます。分野は物理、科学、先進科学、海洋科学、環境・生態学、数学・計算科学、分子・細胞・発生生物学、このようなものに分かれるそうでございますけれども、科学技術の異なる分野が交わる領域を探求することを推奨しているというふうでございます。番組の中でも、各分野の研究者がすぐに集まって議論できる、このことが大きなメリットであるというような場面もございました。ちょっと目についたものですから、ご紹介させていただきました。

スライド29番でございます。このような分野の連携でございますけれども、高校でも徐々にではありますけれども、実際そのようになってきております。

先ほどご紹介申し上げました飯田OIDE長姫高校ですけれども、学科連携、地域連携の先進校として全国から注目されておりまして、例えば3年生の地域活性プロジェクトという学科を融合させた選択授業では、工業科の生徒と商業科の生徒が一緒になりまして、地域の事業所とも連携して地域課題の解決、実践研究を行っております。

研究テーマの一例を見ますと、RFIDシステムによる在庫管理ですとか、「ミニチュアで遊べる飯田市」、あるいはウイルス探知機能搭載新生活様式対応ウォッチ、今年度の緊急テーマでされているそうで、校長先生のお話をお聞きしますと、これらの課題は単科の専門学科では考えが及ばないすばらしいものであるというふうに言われておりました。商業、工業という二つの視点で課題研究に新たな発想や価値を見出して、地元の企業とも連携して地域課題に取り組むことによって地域を大切に思う気持ちが育まれるものと思います。

飯田OIDE長姫高校の校長先生はブログをお書きになっております。このブログの中で地域活性プロジェクトの授業について掲載がしてございます。参考のために校長先生にお断りをして、ブログの一部を資料の一番最後に付しておりますので、またお読みいただければと思います。

最後になります。総合技術高校についてまとめさせていただきます。

総合技術高校は、時代にマッチした学びの展開が期待でき、分野の融合、教科横断の学科連携等による探求的な学びの充実、そして規模の大きさを生かした学びや部活動など、学校活動の実現等が期待されます。

再編統合することが決まりました佐久新校再編実施計画懇話会で上智大学の先生である奈

須正裕先生の講演がオンラインで行われました。「これからの高校に期待される学力」というテーマの講演の中で、これからは何を知っているかという学習から、知識をどう活用して問題解決していくかというコンパスの学習に変わっていく、そして学びの状況を本物にしていくと、オーセンティックな学びというふうに奈須先生は言われましたけれども、必然的に教科の枠を超えて教室を出る学びのスタイルに変わるのだというお話がございました。教科横断、学科間連携は、学びが変わっていくと必然的に求められてくる学びの在り方とも言えると思います。

次に、県内3校の総合技術高校の課題でございますけれども、学科の枠を超えた学習をさらに充実すること、総合技術高校で学ぶ意味や狙いについて生徒たちに理解を深めること、学科連携の充実を図るために環境整備を進めること等が挙げられます。専門学科の学科連携が先進的な取組であるため、学科連携についての理解がまだまだ深まっていないこと、さらにそれぞれの専門学科のこれまでの担当で培ってきた学びの文化にとどまるために、異なる専門学科同士の融合にはまだまだ時間がかかっていること、このようなことが原因だというふうに考えられます。

なお、総合技術高校につきましては、3校設置、今後の教育活動の成果と課題について整備したものをこの3月中に公表する予定でございます。次回合同部会でお示しできればというふうに思っております。

31番でございます。総合技術高校は県内各校で行っている地域と密着して、地域と歩いていく、その貴重な財産を継承して発展させるものです。農業、商業、工業などの分野を越えてつながり、協働して学び合い、そして学校外の行政機関や社会教育機関、高等教育機関や地域の小中学校、多様な企業さん、様々な機関の方々と有機的な関係性を持たせていただくことによって、地域の実生活に根差した専門教育の充実を目指す学校というふうにご理解いただければというふうに思います。

大変長くなって申し訳ございません。

最後に、一般的なお話でございますけれども、再編・統合には、仮に統合を決めさせていただけましても、開校するまでに7年から10年ほどがかかるという場合もございます。このタイムラグを是非念頭に置いていただきましてご議論いただければというふうに思います。

私のほうから、大変長くなって恐縮ございましたけれども、総合技術高校を中心にご説明をさせていただきました。

ご清聴、どうもありがとうございました。

○座長 どうもありがとうございました。

時間も限られていますので、休憩を入れずに引き続きということでご辛抱いただけたらと思っております。

それでは、ただいま県の教育委員会のほうから説明がありましたけれども、分量があったということもありますので、まず初めに質問を受け付けられればと思っております。

主にカラー刷りの資料と、あと資料集という形で、今回県教育委員会事務局作成資料集というのがありますけれども、こちらの中身について少し順を追って確認していきたいな、質問を受け付けていきたいと思っております。

冒頭の資料集のほうはデータですので、よろしいですか。こちらは何か確認……、よろしいですか。

では、続きまして、このカラー刷りのほうにいきたいと思いますけれども、こちらのパワーポイントのページに即して少し質問を受け付けたいと思っております。

冒頭1ページ目から、下に番号を振っておりますけれども、4ページくらいまでの間で、これまで何度も説明があったかと思いますが、高校改革の目的や実施方針の内容、そして再編・整備計画について改めてご質問があればと思います。

1ページ目から4ページ目まではよろしいでしょうか。

では、引き続きまして、下の4ページ目から7ページくらいまでの間に今回の高校再編における一つの誘因と言えるかもしれませんが、少子化におけるデータのほうが記載されております。こちらの現状認識を共有する上で非常に重要なデータだと思っておりますけれども、これについても確認していただいて、何かあれば質問をと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

お願いいたします。

○安曇野市PTA連合会会長 PTA連合会の出水と申します。

質問ですけれども、ここに対象になっているのは公立高校だと思いますけれども、当然私立高校があるんだと思います。大きく公立高校と私立高校の中で、私立が丸々抜けている状況の中で語られているような感じがするんですけれども、その辺りはどういうふうにお考えなのか。私立が増えていく、減っていくとか、あるいはこの私立がそのまま継続されるとか、どのような考えか、教えていただきたいと思っております。

○座長 ありがとうございます。

では、公立と私立との関係等々については、現状、進捗があるかと思っておりますので、県の事

務局のほうからお答えをいただいでよろしいでしょうか。

○事務局（県教育委員会） 申し訳ありません。資料No.でどの資料になりますでしょうか。下の……

○安曇野市PTA連合会会長 資料としてはないものになります。逆に言うと、進む少子化という中で、これで言うと、もしかすると4ページかもしれないですけども、中学校卒業者の予測数という中で、11、12通学区の公立高校に進む生徒さんという前提の中で考えていくのか、当然その中には私立高校に進む方もいらっしゃると思いますので、圧倒的に卒業生が公立高校に来るようになれば、全然話が違うのではないかという前提が崩れる話ですけども、その逆も当然あると思います。なので、結構重要な問題かなと思ってお聞きしました。

○座長 具体的な資料に関する質問というよりは、大きな論点としまして、公立と私立の両者の関係性について、データとしてはないわけですけども、今県の教育委員会のほうで昨今の審議会等あったかと思うので、その辺りの進捗を少しお答えいただければいいのではないかと思います。

○事務局（県教育委員会） 私立と公立の関係でございますが、一応県のほうでは公立・私立の会議がありまして、そこでは全県で大体8対2という形でなっております。公立が8、私立が2、これは全県でございます。そうなっておりますけれども、実際に地区によって大きな差がございます。特に第11通学区、松本地区におきましては、御存じのように8対2というよりも、さらに公立と私立の差が狭まっているというような状況がございます。

○安曇野市PTA連合会会長 今は現状がという話ですか。

○事務局（県教育委員会） 現状でございます。

○安曇野市PTA連合会会長 2035年という、今目途にしているところの中ではどういうふうに変化していくかというお考えはありますか。

○事務局（県教育委員会） 今後の推移がどうなるかということは明確なことはお答えできませんけれども、現在の状況を考えてみますと、従来と一緒にだというようなこともありますので、そういう観点からも私立に、ここが非常に多くなっているというのは現在の状況でございます。その状況が今後続くかどうかということにつきましては、ちょっと明らかには、はっきり申せませんが、そういう傾向は続くのではないかなとは個人的には思っております。

○安曇野市PTA連合会会長 ありがとうございます。

○座長 ありがとうございます。

重要な点かと思えます。松本地区、塩尻も含めてのほうの審議会のほうでは、私立学校関係者も含めて検討しております。また後ほど報告等があるかと思っております。

続いて、7ページ目から10ページ目にかけては、いわゆる県の再編の方針、内容に関する記載があります。こちらの事実確認のほうはいかがでしょうか。

では、お願いいたします。

○安曇野市中学校長会長 確認ですが、10ページの再編対象の条件があります。これは例えば単純に考えると520人以下の人数ということは、学年にすれば173人程度が3年、4年、5年と続くとこの条件になってしまうという、それを見ると既に該当している部分があるような気がするんですが、この再編対象という言葉の意味合いはどの程度の対象ということになるのか、お願いします。

○座長 では、県のほうからお答えいただけたらと思えます。

○事務局（県教育委員会） この対象でございますが、もしかしたら、ご質問の答えにならないかもしれませんが、現在この対象につきましては、県の計画を立てている最中ですので、対象ということについては現在ストップしているというような状況でございます。現在、再編・整備計画の全県版が出た、それが「2年」のところ対象ということになってまいります。そんなことでよろしいでしょうか。

○安曇野市中学校長会長 時期的にはそうだと思うんですけども、条件自体というのは、この条件に当てはまると対象はどういう対象になるのでしょうか。検討する程度なのか。

○座長 つまり519人になった時点で、自動的に再編というのは決定されるのか……

○安曇野市中学校長会長 だから、どの程度なのか。

○事務局（県教育委員会） これは実施方針の中にも書かれておりますけれども、なったらどうするかということですが、これにつきましてはいずれかの方策を検討するというようなことで、基準は520人以下になった場合には、いずれかの方策をとって検討を始めるということになります。

○安曇野市中学校長会長 検討するだけですな。

○事務局（県教育委員会） 検討して、そこに書いてありますけれども、例えば都市部存立普通校であれば、1として、他校との統合、もしくは募集停止のいずれかの方策をとるというようなことになります。

○安曇野市中学校長会長 要するにどちらかしかない。

○事務局（県教育委員会） そういうことになります。

○安曇野市中学校長会長 分かりました。

○座長 よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

続きまして、その後になります、11ページ目以降になります。こちらが今日明確に県教育委員会のほうから改めて説明がありましたけれども、総合技術高校の内容に関してであります。さらに、この言葉だけがちょっと独り歩きしていて、総合技術高校と総合学科との区別がつかないままの議論が行われていたりという部分も少なくはないんですけども、改めて今日、その違いとか、特徴あるいは先行事例等々についての概要がご説明いただきましたけれども、何かこれについてももう少し詳しくというふうな部分でも構いません、ご質問を受け付けられたらと思いますけれども、いかがでしょうか。

では、お願いいたします。

○生坂村教育長 生坂村の樋口と申します。

非常に分かりやすい説明を聞かせていただきまして、少し勉強になったところなんです、すみません、素人の初歩的な質問ですが、あくまでも複数の専門学科が配置されれば、総合技術高校という位置づけになるということであれば、例えば今話題になっている三つの高校が二つ一緒になったということであっても、総合技術高校ということでは位置づけられるということではよろしいでしょうか。

○事務局（県教育委員会） 総合技術高校ということですが、例えば先ほど飯田の件がございましたが、飯田OIDE長姫高校というのは、飯田工業高校と飯田長姫高校というように二つになりまして、お互いに学科連携をしながら、学校運営が経営活動しているということで総合技術高校というような位置づけになっております。

○生坂村教育長 ありがとうございます。そうであれば、三つのうち二つが一緒になって一つだけ単独で残るという選択肢もあり得るということですか。

○事務局（県教育委員会） 可能性としてはございますが、現実的にそれが本当にいいのかどうかというような部分につきましては甚だ疑問が残っております。

○座長 ありがとうございます。

他に総合技術高校についていかがでしょうか。

お願いいたします。

○安曇野市PTA連合会会長 教えていただきたいのですが、先ほど総合技術高校の基礎学科ですね、必修科目になっている部分の話の中で、知的財産権とか商業法とかというこ

とがあったと思いますけれども、その中に、言葉としては私確認できなかったのですが、もう今そういう意味で言うとITの細かい技術とかではなくて、ベーシックな技術みたいなものとか知識だとかというものが必修になっているかどうかということを確認したいので、教えていただければと思います。

○座長 どこにおける学びの中身についての質問と理解すればよろしいですか。

○安曇野市PTA連合会会長 総合技術高校全体の、必修科目の中にそういうのがある……、飯田OIDEさんのところはITシステムがないとおっしゃるんですけども、それ以外のところがちょっと見えなかったものですから。

○座長 いかがでしょうか。

○事務局（県教育委員会） その辺の必修科目かどうかということで、ここでは連携としてこういう科目を取ってあるということで、その他学校の特徴、工業科、農業科、商業科で独自の授業が当然ございます。

○安曇野市PTA連合会会長 すみません、私の質問がいけなかったと思いますけれども、個人的な見解としても入ってしまいますけれども、総合技術高校というものに関していうと、ITの知識、技術は必修かなというふうに個人的に思っています。という前提の中で、今の総合技術高校は3校出ていますけれども、それも同じような形になっているのかどうかを知りたい。

○事務局（県教育委員会） ITというようなところでは必修にはなってございませんし、恐らく同じようにやっているわけではないという構想になっております。総合技術高校というのは基礎的な産業基礎という、お互いのことを知る上において共通の認識、共通の理解ということで必修の連携の授業を行っているということになります。

○安曇野市PTA連合会会長 分かりました。ありがとうございます。

○座長 ありがとうございます。

理解を深めるという意味では、もしよろしければ、次回のように、それぞれの高校における必修のカリキュラムの中身について分かるような資料を用意していただくとイメージが湧くのではないかと感じました。ご検討いただけたらと思います。

他には、今のような総合技術高校に関するご質問はいかがでしょうか。

○大町市教育長 すみません、座ったままお聞きしますけれども、私、ちょっと思っているのは、大学の在り方と、社会へ出る方もいれば、進学される方もいると思うんですけども、大学の在り方とこういう総合技術高校の在り方というのがうまく結びついて今現状でいくの

かなというところがちょっと疑問に思って聞いていたんですけども、一つのリソースとしてはこうありたいなと思うんですけども、例えば私どもの一番身近な信州大学でさえ、こういう今の県の取組とうまくつながるのかなという、その辺の見通しはいかがでございますか。

○座長 それでは、私のほうから、私は何の権限もない立場で恐縮ですけども、現実として、工学部、農学部、繊維学部といったような代表的な学部がありますけれども、そちらにおいては今学科によって大きくくり化というのが進んでいます。ですので、こういった今回ご紹介する千葉大の例などがありまして、これと同様の傾向に国立大学全体が進んでいるということは現状認識としては間違いないかなというふうに思っております。

ですので、農学部と言ったからといって、いわゆる農業、動物といったようなものではなく、そこにITを駆使して何ができるのかといった観点で学んでいるという形になります。もし必要でしたら、またきちんとした形で確認をしっかりとしたいと思います。

他にはいかがでしょうか。

お願いいたします。

○池田町商工会長 9ページですけども、ここに都市部と中山間地存立とありますが、中山間の存立校、下のほうです。ここに明科、池工、大町岳陽、白馬とあります。これはどういう関連を持っているのですか。

○座長 もう一度、最後、この四つの……

○池田町商工会長 四つのくりですね。ここにくりってありますね。このくりについて説明してほしい。

○座長 では、中山間地存立校にこの四つが位置づく理由という意味でしょうか。

○池田町商工会長 それと4校の関係ですね。

○座長 図の示し方の問題もあるかもしれませんが、ご説明いただけますでしょうか。

○事務局（県教育委員会） 中山間地存立校の考え方ということになります。その結果、都市部存立校ということになりますけれども、都市部存立校の考え方というのが、市街地に位置し、地理的条件から学校群として一体的に将来像を検討することが望ましい高校を都市部存立校と言っております。その逆が中山間存立校ということになります。

となりますと、ここにあります明科、池工、大町岳陽、白馬というような部分は都市部存立校の考え方から外れるということで、中山間地存立校というような位置づけになっております。

○池田町商工会長 そうしますと、この4校はどういう考え方になっているわけですか。

○座長 特段、この四角で囲ってある意味がないということになります。

○池田町商工会長 ない。

○座長 はい。

○池田町商工会長 ないものなら、囲まないほうがいいじゃないですか。囲みを取ってしまうと……

○座長 全く関係がないということだと。

○池田町商工会長 ではこれを外しなさいよ。そうしないと考え方がまとまってこないです。

○座長 分かりました。

○池田町商工会長 ですから、この中山間地存立校は今県教委が考えているのは何を考えているんですか。ここへくくったのは何か意味があるのでしょうか。くくったということは意味があるのでしょうか。何も意味がないんですか。

○座長 中山間地存立校の在り方を県教育委員会ではどのように考えていらっしゃるかというご質問ですか。

○池田町商工会長 そういうことですね。

○座長 図表の問題ではなくて、都市部存立校ではないカテゴリーを用意しているわけですが、中山間地存立校の在り方について、県教育委員会さんの方針といいますか、ご見解があればお聞きしたいという質問ということです。

○事務局（県教育委員会） ここにつきましては、先ほどの実施方針のところでも書いてございますけれども、方針の4というところに、細かくあそこには載っておりますが、スライドでいきますと7番のスライドでございます。実施方針の4というところがさらなる少子化の進行に的確に対応するというので、都市部においては小規模校の分離状況からしながら、教育的効果を最大限に目指すということで都市部、逆に中山間地におきましては学びの場の保障という観点から、学びの場の保障を目指すというようなことで、役割分担というか、位置づけをされてそれぞれ持っております。

○池田町商工会長 続いて、そこに関係してくると思うんですけれども、学力というものについてどういう位置づけを持っていますか。説明は非常にいいです、この文章、これはいいと思うんです。読んでいる範囲においてはですね。実践でどういう方法をとっていただくか分からないです。これは非常に、確かに理想です。どのところをとっても理想です。けれども、各学校には特徴がなければいけないですね。ですから、人数ということは大切なことですが、

れども、それをブロックで考えるから難しくなってくる。

これですね、やはり学校に、それは学校群をつくるとしてもいいですが、どういうレベルを求めていくのか。要するに地域に貢献できる範囲に抑えていくのか、もう一つは、今求められているように日本全体のレベルが科学関係においても世界的レベルより落ちている、こう言われております。例えば長野大学を今度つくられた、その審議のときの理想というものは、私申し上げたのは世界から長野大学を目指して来るようなレベルの高い、そして社会に貢献できる大学を育てていくことで私は賛成したということで協力したつもりでございますけれども、これを求めていくと、基本的には人数制限のための学校群の編成である。これは県教委の才覚ではございますけれども、やはり力というものを育てる場がないと私はいけないうと思うんです。これが見えないんですね。どうやって地域貢献しても何してもいいですけども、学校の特性をどういうふうに育てていくのか、これをやっていかないと我々は理解できないんですよ。何を求めていくのか、これはただ羅列に過ぎない感じがするんですね。だからその辺のところはこれでは読めないと思います。そういうことをお聞きしたい。

○座長 ありがとうございます。

ご意見にも入るかなと思いますけれども、1点補足で言いますと、2ページ目の左下にあります、先ほどのそれぞれの個別の学校における見通しということかと思いますが、2ページ目の左下の方針1のところ、学校ごとに三つの方針の策定と運用というところがあるかと思いますが。ホームページをご覧いただければ是非と思いますけれども、今県立高校全ての学校が全てホームページ上でこの三つの方針を明確に掲げるに至っております。そちらもまた機会があれば、県のほうでもそういった資料もご用意いただいて、それぞれの個別の学校がどういうふうな生徒をどういうふうに育てようとしているのかということもご確認いただけるのではないかとこのふうには、関連として感じました。

もし今のご意見等について、県のほうで応答していただければ、ありがたいかと思います。

○事務局（県教育委員会） こちらとしましては、くどいようですがけれども、社会が大きく変化中、これからの子どもたちは、専門高校で学ぶ子どもたちについては多面的な職業能力の育成が非常に重要ではないかというようなことを思っております。そういう中においては、今まで培ってきた専門高校を総合学科とか総合技術高校ということにすることによって、農業なら農業の学びも、商業の学びも、工業の学びもいわゆる工業の学びだというようなことで、これからの産業に適するような多面的な能力を育成し、それをさらに地元の経済発展、地元を支えていけるような人材になっていけばいいかなという願いがございます。

○池田町商工会長 ちょっとお伺いしたいのですけれども、この合同会議というのはどのくらいやるつもりなんですか。

○座長 では、後ほどそれはご質問としてご回答いただこうと思います。

○池田町商工会長 それによって違っちゃうんですね。今後の受け止め方が、これは何回行うのか。だって、はっきり言って、例えば実例として、どんなカリキュラムを使ってやっていきたいかというのを、そこから何を求めていくのか、これがないと、幾らこれをやっても絵空事になってきちゃう。現実に進めてきたところはどんな感じになるのか。それはどこへつながっていくのか。先ほど質問が一部ありました信大なら信大へどうつながっていくのか。それは今度は極端に言えば、今世界が宇宙戦争になってくるわけでありましてけれども、どういうふうにつながってもっていけるのか。そこらをやったり具体的に理解させてもらわないと、例えば総合技術高校でございますという中で、先ほど説明がありました農業とか、これは全て平均的にいくと言うけれども、農業は農業分野で徹底してやらなければいけないんです。工業は工業の中でどういう観点で生きていくのかということ子どもたちが見定めた中でしっかりと教育をもっていけないと、そういう観点がちょっと読めない。だからそれをどういうふうに関後の会議でもっていけるかどうか。ここらですね。ただ教育をやればいいだけではなくて、平均的な人間をつくるのだったら、そういう方針なら方針を出してほしい。しかも高校3年生、3年ではないんですね。これは変わってないでしょう。農業を5年やるとか6年やるとか言っていれば別ですけれども、3年間でどれだけのことができるんですか、はっきり言って。

現在でも学校統合には苦勞しておられますよね。対応をとられたりいろいろなことをやっているわけです。そのために高校は今こういうコースがあり、どういうコースがある。商業科もあるわけですね。普通高校もあるわけです。ですから、それをどのように分離融合させて、その力をより持ち上げていくのか、どこに目的を持っていくのか、そこが読めないんですね。

○座長 分かりました。では、今は質問の時間ですので、この後でまた会長にはコメントをいただこうと思いますけれども、回数の方と、そしてもう一つは、できればといいますか、先行として存在している総合技術高校の事例を含め、もう少し詳しい資料、あるいは対応というふうなものがないと具体的な応答ができないのではないかとこの貴重なご意見かと思しますので、また後ほど戻ってくるかと思っておりますけれども、一旦受け止めていただけたらというふうに思っております。ありがとうございました。

他には、ご質問という点ではよろしいですか。

◎懇話会と協議会の状況について

○座長 では、時間も限られていますので、次のところに移りたいと思っております。

改めて次第のほうをご覧いただけたらと思います。

続いて、現在、懇話会と協議会というものが走っております。先ほどの質問に関わることも出てきますけれども、それぞれの両地区の状況について、限られた時間ではありますけれども、概要の説明、報告等をさせていただきたいと思っております。

旧第11通学区の高等学校教育懇話会のほう、そして研究部会Ⅲの状況説明をまず冒頭いただきまして、その後大北地区における高等学校を考えるほう、こういった順番でそれぞれ事務局からお話をさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○事務局（安曇野市教育委員会） それでは、私、安曇野市教育委員会学校教育課長、沖と申します。よろしく願いいたします。

資料、A4の旧第11通学区高等学校教育懇話会研究部会Ⅲ（安曇野）の開催概要とある1枚物の資料をお願いいたします。

研究部会3の状況をご説明申し上げます。表をご覧ください。

第1回から第4回まで開催いたしました。第4回目は書面会議ということで取りまとめをさせていただいております。

第2回、第3回の会議におきましては、各高等学校の学校長から現状と課題について説明を受けた後に、同窓会、保護者、教職員の皆様からそれぞれのお立場でお考えを伺ったところでございます。また、生徒の皆さんからも懇談会形式で、各校に事務局が出向きまして考えを聞き取ってまいりました。

この中で様々な意見を頂戴したわけですが、主だったところを端的にご紹介させていただきます。

2の（1）としまして、第1回の会議におきましては、構成員の委員の皆様から頂戴したわけですが、まずは公立高校の役割をはっきりさせる必要があるということ、人口減少に対応するには学校は減らすべきだ。また、子どもが多様化してきており、大勢が学べる規模のある学校と少人数で学べる学校の両方が必要ではないか。またこの地域が好きな方々をもっと積極的に集めていくことが重要である。また、地域が学校にもっと関わりを持

ったり当事者意識を持って考えていく仕組みが必要である、こういったご意見を頂戴しました。

また、第2回、第3回の聞き取り調査の結果の中では、地域や企業との交流などが非常に大事であって、そのことが住民の信頼につながっていく。そして学校の特色や魅力が受け継がれていくんだということ、また、専門高校、普通高校ともにキャリア教育の充実を強くしていくべきだというご意見、裏へまいりまして、これからの生徒たちの教育は地域全体でその責任を担っていく必要がある。これから予想される生徒減、学級減につきましては、専門学科は既に少人数の学習の学びが伝統的に行われていて、教育効果が大きいという強みがあるんだということ、ですので現状のよさを失うべきではないという意見がありました。

また、高校の統廃合につきましては、賛成、反対両方の意見がございました。また、生徒の意見の中では、現在のように少人数で質の高い学びが保障されるのか不安であるという一方で、自校や他校のよさを併せ持った新たな学校づくりもあるのではないかと現実を直視する考えも示してもらいました。

また、ICT環境の整備が進む中では、今市内に4校、相互に連携した学びが既に行われている、すぐにもできるし、現状でもできることはあるんだということ、それから、総合技術高校の設置につきましては、旧11、12だけでなく、松本も含めた全体で考えるべき問題である。また、既に先ほどご説明があった設置されている県内の総合技術高校についてしっかりと検証して丁寧に説明してもらいたいということ、それから、学校現場や同窓会、地域の納得できる説明と理解、協力が必要である。このようなご意見を頂戴したところでございます。

以上でございます。

○座長 短い時間で、ありがとうございました。

では、続きまして、大町市のほうから、事務局。

○事務局（大町市教育委員会） それでは、お願いいたします。旧12通学区の協議会のほうのこれまでの経過をご説明させていただきます。

大町市教育委員会学校教育課の三原と申します。よろしくお願ひいたします。

資料のほうはお配りしておりますホチキス止めのA4判となります、大北地域における高等学校の将来を考える協議会の検討状況についてということでございます。

これまで3回の会議を開催してきてございます。

1ページ目でございます、上段、第1回の会議におきましては、協議会の発足と、その際

に県教委のほうから高校改革の概要説明についてご説明をいただいたところでございます。

第2回目につきましては、改めて県教委から、高校改革の実施方針の概要、並びに旧第11通学区の進捗状況等についてご説明をいただきました。その中で出された主な意見等をそちらのほうに記載してございますので、またご覧いただければと思います。

その際に、第3回の会議に向けまして、旧第12通学区内の3校ございますが、この現状と課題を次回の会議で学校長から報告いただき、現状認識をしようということで第2回は終わったところでございます。

2ページ目でございますけれども、第3回の会議概要でございます。

先ほど申し上げました旧第12通学区内の3高校、池工、大町岳陽、白馬高校の現状と課題について学校長から発表いただきまして意見交換をさせていただきました。また、県教委から、長野県内の他地区の再編、または整備計画の状況等のご報告をいただいて、情報共有をさせていただいたところでございます。

今後の進め方というところで、本日は合同部会の設置について県教委からご提案いただきましたので、そちらのほうを議論させていただいたというところでございます。

その際に、出された主な意見としまして、こちらのほうにも幾つか列記させていただいてございますけれども、上から三つ目の丸、学校で学ぶ子どもたちはやがて地域社会、地域産業を支えていく大事な生徒、子どもたちでございます。合同部会で議論を深めていくよう提案をいただいたところでございます。

また、次の丸でございますけれども、協議会の議論はこれからなので、合同部会で両方の関係者が具体的な意見を出し合い、その結果を協議会でさらに議論を深めていくことが大事ではないかというご意見をいただいております。

また、一つ飛ばしまして、その次のところですね。中信地区にはこういう短期大学等上級の学校がございますので、この地域でどのような産業を起こしていくか、地域を発展させていく、地域とのつながりの視点も含めた検討が今後必要ではないか。

また、合同部会の設置については賛成でございますけれども、少子化なら、専門高校3校を統合、廃校ということが同じような議論をいただきたいというソフト面の部分での検討も必要ではないかというご意見をいただき、この段階で合同部会、是非設置して一緒に議論を深めたいということで、これまでの議論が進められているところでございます。

以上でございます。

○座長 ありがとうございます。

今二つの事務局からの進捗状況の報告をいただきました。これに関しましてご質問等あればと思いますけれども、いかがでしょうか。

○大町商工会議所会頭（代理） 大町でございますけれども、今三原課長の説明があったほうの会議に出席しているので、内容も理解できるのですが、ちょっとお伺いしたいのです。旧第11通学区高等学校教育懇話会の研究部会Ⅲというタイトルになっております。全体像としてどんな議論がされているのか、安曇野市、旧第11通学区、大まかなイメージをいただければと思います。

○座長 お願いいたします。

○事務局（安曇野市教育委員会） それでは、平林でございますが、お答え申し上げます。

ご承知かどうか分かりませんが、旧第11通学区の懇話会には三つの部会がございます。Ⅰのほうは松本市様、Ⅱのほうは塩尻市様、Ⅲのほうを安曇野市で預らせていただいている状況でございます。主に市内4高校の今後の在り方について議論をさせていただいておりますし、今般の合同部会におきましてもこちらの県教委の方々と共同事務局をやらせていただいているということでございます。

ですから、安曇野市内の4校についての在り方の主に検討ということと合同部会の運営ということでございます。

以上です。

○座長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。およそよろしいでしょうか。また、追加で何かあればと思います。

ほかには進捗状況の確認についていかがでしょうか。

よろしいですか。

◎意見交換

○座長 それでは、残り時間もわずかになってまいりましたけれども、意見交換の時間を少し取りたいと思っております。

今回、先ほどのパワーポイントのスライド資料でいきますと、11ページ以降になりますけれども、これまで実施方針に記載のありました総合技術高校についての説明の内容はご理解いただけたのではないかというふうに思っております。差し当たり残りの時間を使って、ご感想、ご意見を承るといのがこの後の時間の使い方です。また次回以降に関して、先ほ

ど池田町の商工会長さんからご意見をいただいたように、こういった資料をとかこういうふうなご要望もいただきながら、次回に向けて準備をしてまいりたいと思っております。

自由にとっておりますけれども、いかがでしょうか。

○池田町教育長 池田町の竹内でございます。よろしく申し上げます。

まず、最初に、先ほど池田町の矢崎会長さんがご発言いただいたこと、私なりの理解でちょっと補足をさせていただきたいと思うんですが、先ほど県の教育委員会からご説明いただいた総合技術高校のモデルについては大変よく分かりました。ただ、会長さんがおっしゃっていたように、我々の議論に先にある先進的なモデルとしてお示しになった幾つかの総合技術高校が、例えば高校教育の効果、成果においてどれほど担保されているのか、その成果がどれほど担保されているのかということについて、もう少し詳細なご説明が欲しいかなというのは私も思いました。

といたしますのは、やはりこれからこのテーブルでの議論においては、総合技術高校なり、そういった方向でもし議論が進む上で、実際にその地域であったり、進学を考えている中学生にとっても、総合技術高校になれば、もっともって教育の質が上がる、もっともって楽しい高校生活を送れるというような希望的な夢であったりとか、そういったものは明確に持てるかどうかというところが、そういう高校をつくるべきかどうかということの非常に重要なポイントになるかなと思いますので、やはりモデルとして示されている高校の現状から、これから先を見据えた教育的な成果、効果がどれほど確かなものかというようなことは、まだ時間がかかるかもしれませんが、そこの辺りは是非丁寧に我々も理解していきたいなというふうの一つ思っているところです。

それともう一つは、私個人の意見として申し上げたいのは、先ほど県教委のご説明していただいた少子化傾向であるとか、そういった課題の認識、また、高校再編の理念、方向性については基本的には私は異論がありません。ただ、統合した場合に、その高校がどういうふうに整備されるのかということが極めて重要であるというふうに考えます。

と言いますのは、言い方はちょっと乱暴ですけども、例えばアクセスがいいからここに置きますとか、既存の高校の校舎が有効活用できるからここに置きますとかという、そんな利便性であったり、経済的な効果だけをもって場所を決められると、結局は人口が多いでしょう、便利でしょうということで、それ以外の地域がどんどん疲弊をしていく、それに加速をかけるということになりかねないかなと思います。

特に我々義務教育を預かっている立場からしますと、もう今や高校教育が義務教育に等し

いくらの進学率であります。やはり地域に高校があるということが、親からして見ると、例えば保育幼児教育の段階、小学校の段階から、その地域に住むかどうかということの重要な選択のポイントになってまいりますので、高校がそこにはない。そこから高校に通うのは大変だという地域は恐らくこれからどんどん少子化がさらに加速をしていくということは言えるのではないかと思いますので、例えば県としては是非長野県全体の教育の底上げ、地域力というものを、都市部がどんどん便利になって人が集まる、でもその周辺地域はどんどん少子高齢化が進んで疲弊していくということになると、長野県全体としての力というものが相対的に落ちていくのではないかと思いますので、是非地域バランスなり、地域の未来を考えた高校が統合されるなら、設置の場所の検討を丁寧に進めていただきたいというふうには考えます。

ですので、あえて例えば今現状ではアクセスも含め、ある程度ここに特色のある、魅力のある高校を設置することによってそこに新たな一つの地域文化がそこで栄えていくような、そういうような長い視野から方針なども立てていただければなんていうこともちょっと思いますし、いずれにしてもどこに設置をするのかということの議論を是非丁寧にお願ひしたいと思います。

○座長 ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

お願いします。

○元大町高校長 横川と申します。12の合同会議のほうで説明は済んでいるんですけども、私は農業高校に勤務した経験から、ちょっとお話をさせていただきたいと思います。

やはり農業は農業のプロパー、専門を育成することは大切なことですが、子どもたちの中には農業経済、あるいは農業機械という科目が必ず必修であります。選択必修という学校もありますけれども、その連携というのは、先ほどの説明にあったとおり、今後ますます専門教育の中にさらにオーバーラップした商業、工業とも連携というのは重要になることは間違いないと思います。

それから、中学校を卒業時点で進路選択、今職業教育とか、あるいは職場体験でかなり中学生が進路について考える機会がございますけれども、高校に入った時点で、工業だけとか農業だけというのはなかなか難しいです。ですから、私たちとするならば、高校の出口の指導のときに、農業高校を出たから農業のところへ行くなんていうことはない時代になりました。大学も当然です。そういう意味でも3年間を考え、わずか3年間かもしれませんが

も、多様な生徒を多様な科目で将来の設計を考える時間という、そういう意味での総合技術高校というのが大事だというふうに思います。次回、具体的な例があると思います。

最後に、スケールメリットについて、私、この中でそれを経験した学校です。勤めておりました。大変でした。統合は本当に大変でした。ですけれども、子どもたちにとっては大変なメリットがありました。生徒の自主的活動はスケールメリットが大きいと思います。デメリットはもちろんあります。高校の人数が多くなるために手が行き届かない、目が届かなくなるという例もあるかもしれません。それは少人数学級とか様々な対応があると思います。

それから、今池田の竹内教育長がおっしゃったように、地域性ですね。これは学校がなくなるとか、子どもたちが少なくなるというのは大変な課題です。これは県教委も多分地域性を考えておられますが、例えば都市部の学校の定員を減らすとか、あるいは私立高校、先ほどもPTA会長さんからお話がありました。私立高校との、特に11通学区のこれだけの私立の学校があって経営をしているわけですから、その辺の折衝も合わせた上で検討することが大切だというふうに感じました。

以上です。

○座長 ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。

では、お願いいたします。

○松本機械金属工業会長 今こうやって、特にテレビみたいなものがあると、何か言葉の端々で、森さんではありませんが、つつかれるのが嫌でありあまり言わないでおこうと思ったんですが……、私はこれだけの少子化になって、これだけのデータを見て、高校の数を今までどおり維持するという、その発想自体が全く理解できません。生徒が減るということは、つまり先生になる、そこも減るということで、私は先生という仕事はすごい仕事だと思うんです。お世辞ではなくて、今は何が言いたいかという、幾ら少人数で頑張っても目が届くようにしたとしても、先生の質がどんどん落ちてきちゃうと何の意味もないんですよ。大リーグのチームがどんどん増えたから、チームの質がだんだん悪くなるように、とにかく人口が減ってくるということは先生になる比率も当然その比率で、それを今までと同じ先生の数を維持しようとするれば、先生の質は確実に落ちます。先生の質が落ちたら、生徒の質は落ちます。そのくらい先生というのはすごい力を持っていると思います。

そういう意味でも、私は少子化だからただ減らせと言っているのではなくて、きちんとした教育をやるためにはいい先生が必要です。そのためにはただただ今の学校を維持して、先

生の数だけ無理やりつくってというのがもう教育の劣化に間違いなくなると思うものですから、本当に日本が減びると私は思っています。そのくらいのことだなと思っています。

それともう一つ、どうしても気になるのですが、いろいろな意見を言う会だとすれば、こういうものは前もって配って、この説明に何でこんなに時間をさばくのか全く理解できません。皆さんの意見を聞きたいわけなんでしょう。1週間前に配っておいて、読んできてくれればそれで済む話ですから、それに多少の補足はいいですけども、どうせやるのなら、これだけの人間を集めるのですから、もう少し有効に使うということを考えていただきたいと思ひます、この会議自体が。

言いたいことはいっぱいありますが、ここでとめておきます。

ありがとうございました。

○座長 ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。

先ほどヨコカワさんからお話がありましたけれども、同じ高校業界ということで、保坂先生いかがですか、何か今回のことで。

○豊科高等学校長 私も聞いていて、先ほどPTA会長さんからありました私立高校との関係というのは、やはりこれを抜きにしてはそもそも考えられないのではないかというのを、今ちょうど高校入試が終わりまして、この後合格発表があるのですが、今年の志願者数をご覧いただければ本当に一目瞭然なんですけれども、全県的に1倍を割っている学校が急激に増えました。この11通学区内でも今までにない県立高校の倍率の低下です。これは本校もそうなんですけれども、どうしてこういうふうになったのかという、まだ分析ができていないのですが、今いる高校1年生と今志願している中学生との比率をざっと見たときに、本校の場合もやはり松本市内から来ている生徒が減っています。安曇野市内の生徒も若干減ってはいるんですが、松本市内、それから、大北地域から来ている生徒が急激に減っているというふうなことがあります。その生徒がどこに行くのかというと、やはり松本市内の私立高校へ流れていくというふうに考えるのが一つの一番大きな原因かなと思っているところです。

そういったこともありますし、今、総合技術高校ということでずっとお話を進めてきたのですが、普通高校のほうも、ですから待ったなしの状況であるということは是非ご理解いただきたいと思ひます。

あと今もありましたけれども、この会議の進め方です。やはりこれだけの皆さんがお集まりになっているので、できるだけご意見をいただく時間を増やしていただいて、過去に説明したところは思い切って省き、あと資料を読めば分かるところを、説明を是非次回から省い

ていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○座長 ありがとうございます。

時間が経過していますけれども、他に何かございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、予定の時間を超過しておりますので、次に移りたいと思っております。

今、様々なご意見をいただきました、冒頭確認しておかなくてはいけない会議のマネジメントの部分に関しても改善すべき点が多々ありますので、そちらは次回以降、私もこの立場になりましたのでコメントのほうをさせていただきたいと思っております。

その他具体的内容としましては、公立と私立の関係についてというふうな論点、もう一つは総合技術高校における枠組みについての理解を皆さんしていただいたかと思っておりますけれども、具体的なカリキュラムの教育課程の内容、あるいはキャリア教育の状況、そういった部分についての説明がもう少し必要かなというふうなご意見をいただきました。

三つ目は、既に総合技術高校は存在していますので、先行事例のお話という形も資料提供等していただくとともに、もし可能でしたら、高校の管理職に来ていただくなり、具体的なご意見、具体的な子どもたちの姿についてお話をいただく機会もあったらいいのではないかなというふうに感じました。

もう一つは、これも先ほど池田町の教育長からご要望等がありましたけれども、もう一步県として踏み込んでいただきたいということかと思っております。総合技術高校の設置ではないかなというふうなところから、設置した場合のシミュレーション、具体的には場所というふうなご意見がありましたけれども、そこまで踏み出せるのかどうかということも一旦きちんと受け止めて検討いただきたいなというふうに感じております。

◎その他

○座長 では、(4)のその他というところに移りたいと思います。

今日ご意見をいただいたことも踏まえまして、次回の会議運営に生かしていきたいと思っておりますけれども、是非次回はお一方ずつ、現状に対するご認識、ご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしく願いできたらと思っております。

また、次回に関しましては次第の部分にありますが、現状では4月26日月曜日、大町市にてというふうなことで、また通知等送らせていただくことになるかと思っておりますし、資料に関

してもできる限り早く、あらかじめ皆さんにご理解いただくために送付ということも心がけていただくように、ここで改めてお願いのほうをさせていただきたいと思っております。

最後に、次回開催は、こちらに記載しておりますとおり、4月下旬ということになっております。それぞれ委員の皆様のお立場等変更になることかと思いますが、継続の第2回の合同部会という形で開催させていただきたいと思っておりますので、可能な限り、こちらとしては同じメンバーで検討をお願いしたいと思っております。もし不都合等ある場合はまた事務局のほうにご意見等お寄せいただけたらと思っております。

差し当たり用意したところ、こちらの不手際がありまして時間を超過しましたがけれども、以上になります。

この後はまた事務局のほうにお戻ししたいと思います。よろしくお願いたします。

○司会 荒井先生にはスムーズに議事を進行していただきました。誠にありがとうございました。

構成員の皆様から、ご発言、さらには座長からお話ありがとうございましたけれども、他の資料等の要望はございませんでしょうか。

◎閉 会

○司会 それでは、以上をもちまして、安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会を終了させていただきます。

本日はお忙しいところお集まりをいただき、誠にありがとうございました。

お疲れさまでございました。